

生活支援体制整備

協働 スタイル

～みんなの思いをかたちに～

巻頭インタビュー

北本市 地域支え合いの仕組みづくり会議
狭山市 いりそ支え合いたっち

取り組みピックアップ

入間市/春日部市/所沢市/志木市/
鶴ヶ島市/さいたま市/飯能市

生活支援コーディネーター

まちかどSC【第1層・第2層】

ワンポイント講座

住民主体の移動支援を進める際の
始めの一歩

地域づくりと介護予防

生活支援体制整備

『協働』スタイル

～みんなの思いをかたちに～

令和2年2月発行

企画・発行：埼玉県

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

埼玉県福祉部地域包括ケア課

TEL:048-830-3256

製作：社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会

〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65彩の国すこやかプラザ内

TEL:048-822-1248 FAX:048-822-3078

<http://www.fukushi-saitama.or.jp/>



埼玉県マスコット「コバトン」&「さいたまっち」

高齢化が進む中、元気な高齢者はもちろん、支援や介護が必要になっても自分らしく暮らし続けられる地域をつくっていくことが求められています。そこで始まったのが、生活支援体制整備事業です。

生活支援体制整備事業は、公的サービスや制度だけでなく、多様で特色を生かした住民同士の支え合いの取り組みを充実させていき、誰もが暮らしやすい地域づくりを進めていくものです。

そこで、住民同士の支え合い活動をサポートする体制として、設置・配置されたのが「協議体」と「生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)」です。

埼玉県内でも、協議体と生活支援コーディネーターが住民主体で進める地域づくりの後方支援を行い、様々な取り組みが生まれています。

この冊子「生活支援体制整備『協働』スタイル」みんなの思いをかたちに「では、思いや熱意をもち、時に楽しみや苦勞を地域の仲間と共有しつつ、住民の皆さんと地域づくりを進めている協議体・生活支援コーディネーターの活動を掲載しています。

皆さまの日頃の活動のヒントにしてください、埼玉県内でたくさんの方の支え合いの花を咲かせるきっかけとなることを願っています。

生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)ってどんな人？

その1 地域を回り、住民の声を聞き取り、発信

その2 住民同士の支え合いが進むよう、情報提供や相談に乗るなどサポート

その3 支え合い推進のため、ヒト・モノ・情報など様々な資源をつなぐ

その4 協議体とともに、住民の皆さんが主役の地域づくりを応援

協議体ってどんな集まりなの？

その1 地域の困りごと解決に向け、多様なネットワークを活かした話し合いや、検討を進める

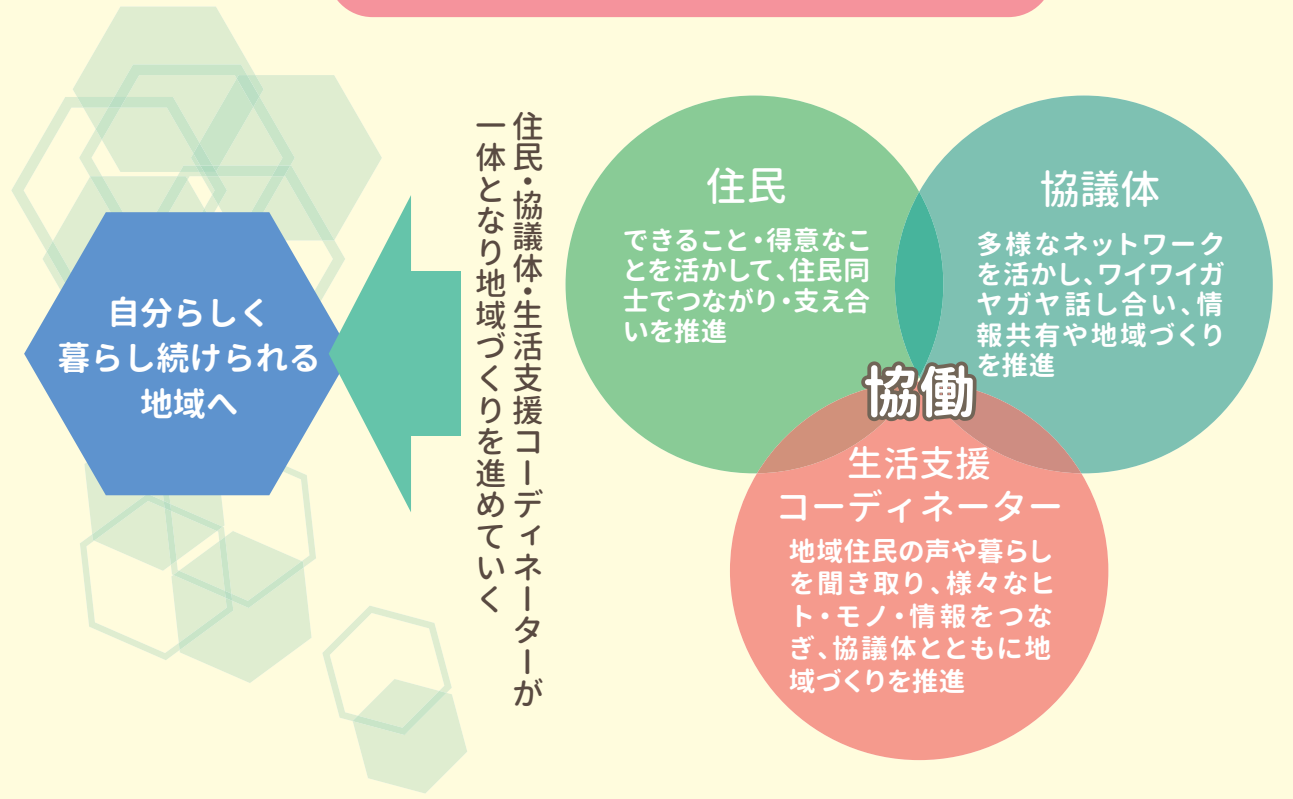
その2 すでにある住民同士の活動やサービスを活性化したり、新たな資源を生み出すことで、地域の支え合いを推進

その3 住民同士の支え合いの輪を広げていくため、広く情報発信したり、仲間づくりを促進

その4 生活支援コーディネーターとともに、住民の皆さんが主役の地域づくりを応援

第1層・第2層とは？ 第1層は市町村域全体を言います。第2層は住民の生活圏域に近いエリアのことで、多くは小・中学校区や地域包括支援センターの圏域などで設定されています。

サポート体制



【略字表記】 ※この冊子では、次の用語については略称として()内の表示を用います。生活支援コーディネーター(SC) / 社会福祉協議会(社協) / 地域包括支援センター(包括)

役割を持つと地域の支え合いに参加しやすくなる

協議体は「みんなで解決する場」

北本市

地域支え合いの仕組みづくり会議 (第1層協議体)



写真左から順にご紹介

柴田辰雄さん(ボランティア連絡会)現在91歳
小口恵美子さん(民生委員・児童委員協議会)精神保健ボランティア20年
矢島則夫さん(北本市社会福祉協議会支部長連絡会)元会社員
高橋誠さん(自治会連合会)元自衛官

インタビューに
答えてくれた方

北本市第1層協議体では、参加者がそれぞれの所属団体の情報を共有し、各団体の活動に還元させるなどして地域の活性化につながっています。また、地域のつながりづくりの大切さを実感していることから、将来に向けた住民への啓発にも力を入れていきたいと考えています。今回は、協議体メンバーから4人の方にお話を伺いました。

協議体に参加したことで気づいたことや、感じていることはありますか。

矢島：「最初は何をするか？居場所づくりって何？」と思っていました。もともとサラリーマンで地域のことをあまりよく知らなかった。協議体に参加したことで、PRが足りない地域イベントに参加してもらえないことに気づいた。地域懇談会

を実施したときも、いつも参加してくれる人たち以外には情報が届いていないことがわかり、民生委員や自治会長に積極的に周知をお願いしたことで多くの方に集まってもらえた。その経験から、地域では「上手に助けて上手に助けられること」が大事だということが分かった。

新しく始まったサロン「北部公民館カフェ」は、こうしたつながりや支え合いがあったからこそ、すぐに立ち上げることができたと思う。

柴田：常に多くの方たちと協働していれば、裾野が広がると思う。私自身も長くボランティア活動などの経験をしてきて、みんなの協力は本当に大切だということに身染みて感じている。ボランティアや支え合いの活動は陽が当たらなくてもよいが、こうした活動が地域に

は必要だということを感じる若い人たちが少しでもいいから増えてほしい。

人が生きていく上で、地域とのつながりがないと孤立してしまう。だから、地域での支え合いを生み出す協議体という仕組みに違和感はなかった。むしろ願ったり叶ったり。

小口：私は、民生委員として活動しつつ、精神保健のボランティアを20年近く行っている。精神障がいのある方やその家族の話やサロン活動では、優しい気持ちを持った方々が多く、自分自身も逆に元気をもらっている。

高橋：私は2019年2月まで自衛官として勤務していて、自衛官時代に、特に災害支援などを通して「地域としっかりつながっていないといけない」と教えられ、今でもそのことが自身の心に刻まれている。結婚を機に30歳から自治会に関わり始めて、今は自治会長をしている。自治会長になって1週間で自主防災会を立ち上げた。みんなの関心が高い防災というところから始まり、今ではイキイキとまちゃん体操まで広がっている。幅広く地域の住民同士がつながるきっかけやイベントが大切だと思うので、協議体でも発信しているし、市内にもっと広がればよいと思う。

今後、協議体でどのようなことに取り組んでいく必要がありますか。

柴田：第2層の圏域の中でどれだけ担い手を増やすのか、育てていくのが課題となると思う。様々な施策や活動があっても、いつまでも限られた人だけでやっていては限界がある。担い手となる人には、自主的にやっているという意識を持ってもらいたいし、そ

うやって仲間を増やしていかないといけない。年代ごとに生活様式や考え方が異なるので難しい部分があるが、大勢の意見を聞きながら、最大公約的な活動目標を作ることが協議体に必要だし、大切なことだと思つ。

矢島：年齢的に40代〜50代の中間層が地域の活動になかなか参加できていない状況が悩み。シニアになって、いきなり地域で活動をスタートするのは難しい。高齢者に限らず、どんどん参加してほしいし、そうした仕掛けも考えていきたい。

柴田：私も幅広い方が常に参加している状況が望ましいと思う。

高橋：でも企業に勤めている人など働く世代の方々はなかなか難しいかもしれない。ただ、私自身も家族に介護が必要となり昼夜逆転して大変だった経験があるが、その時は様々な手続きなどを自治会の方に教えてもらった。ある日突然、介護保険の支払いでびっくりしたし、こうやって自分がその立場になってみると自分からしないと感じた。地域で関わり合いがあったから



※1 『イキイキとまちゃん体操』ご近所同士で介護予防！住民主体の“歩いて行ける通いの場”が拡大中。



※2 『えがおの広場よっちゃん家』第2層協議体での話し合いから生まれた空き家を活用した新たな居場所。

こそ、教えてもらうことができたので、働く世代にも啓発をしていく必要があると考えている。

いりそ支え合いたっち(第2層協議体)



写真左から順にご紹介

田口信一さん(さやま市民大学卒業生)
 大久保昭造さん(地域のボランティア、大生病院理学療法士)
 関口武男さん(狭山市社会福祉協議会入曾支部 支部長)
 鷲野勝正さん(元民生委員・児童委員 地区会長)
 小川洋之さん(さやま市民大学卒業生)

インタビューに
 答えてくれた方

今から準備！自分たちが大変な立場になってからじゃ遅い ワンチームで支え合いの仕組みづくり

狭山市

狭山市入曾地区では、第2層協議体が主体となって居場所づくりや各種サービスを実施しています。メンバーはそれぞれの地域活動や民生委員活動の経験を生かし、みんなでアイデアを出し合いながら、「いつまでも元気に地域で暮らす」という理念の実現に向けて取り組んでいます。そんな入曾地区の第2層協議体「いりそ支え合いたっち」の中から5人の方に話を伺いました。

協議体の特徴や、参加して感じていることを教えてください。

田口:私は居場所づくりの活動に参加しており、最初は福祉や介護サービスの支援が必要なのではないかと思っていたが、実際にはまだまだ元気な方が参加していると感じた。

協議体に参加してみても、これから介護保険が必要な予備軍の方たちが地域にはたくさんおられ、そんな方々の見守りの場でもある居場所づくりが必要とされていることがよくわかった。

関口:私は、自治会連合会で活動しているが、協議体には、それ以外の様々な活動をしている人たちも参加しているのですね。いろいろな意見が出て、みんなで物事を決めていける場だと感じている。

「いりそ支え合いたっち」は、平成28年から勉強会が始まり、平成29年から毎月1回会議を開催、立ち上げまでに2年近い時間がかかった。しかし、今でも住民に、協議体について理解してもらえていな

巻頭インタビュー その2



柴田辰雄さん

地域の将来を考えると、このような様々な取り組みを通して、子どもたちから地域との関わりは楽しいんだという...

とを覚えておいてもらう必要があると思う。

柴田:できる範囲で役割をもってもらうのが良い。協議体でもそう。些細なことでもいいから役割をもつと参加しやすい。例えば、チラシ配りも何枚か近所の協力者に渡して周知してもらおう。一緒に動いてもらうことで関心をもってくれる。苦にならない役割をまず頼むのが大事。関係することによって新しい話題も入ってくるだろうし、これが上手なネタ探しになる。それに対してしっかり取り組むのが協議体に求められる役割なのだと思う。

小口:買い物に困っている住民がいて、協議体で話したら他のメンバーから移動販売車の情報が得られて、その地区にも来てもらえるようになった。自分たちの力で何とかできたのは本当に良かったし、協議体はみんなが解決していく場なのだと実感した。

柴田:居場所づくりは見守りを含めた情報交換の場になる。買



高橋誠さん

小口:地域の声が第一。新たに生まれた居場所の「えがおの広場よっちゃん家(※2)」は、第2層協議体メンバーが「うち空いているよ」と空き家を提供してくれた。居場所づくりでどこかを借りようとする時、どうしても家賃が発生する。ボランティア活動はお金が出ないからそれが真つ先に課題になるけど、この事例ができたことで、次の

居場所づくりにつながるかもしれない。放っておいたら家が傷むけど、掃除や空気の入替えもするのでサロンなどで使わせてもらえると良いと思う。

高橋:お金や手間をできるだけかけずに、人を集め、つながりをつくっていくことが必要。例えば、ラジオ体操などは効果がある。子どもが来れば親も来るし、そのおじいちゃんやおばあちゃんも来る。私の自治会では、大人たちに声をかけ、スタンプカードを作り、土日はポイント2倍など現代風にアレンジし運営している。それから、参加賞も子どもたちに買い物に行かせ、準備してもらおう。「2万円分お菓子買ってきて」なんて言う子どもは大喜び。それを今度は自分たちで配ってもらう。きっと子どもたちが大人になっても記憶に残っているだろう。

高橋:将来像をいろいろと考えているが、協議体は40代や50代の自分たちが、この先困ることを今のうちに解決しておく場でもあると思う。北本市の今までの伝統を活かしながら、幅広い世代の市民がつながり、共に支え合っていく仕組みを考えていきたい。

地域の様々な活動や協議体の取り組みで、みんなが一緒に動いていくためにはどんなことが必要だと思いますか。



矢島則夫さん

高橋:お金を手間をできるだけかけずに、人を集め、つながりをつくっていくことが必要。例えば、ラジオ体操などは効果がある。子どもが来れば親も来るし、そのおじいちゃんやおばあちゃんも来る。私の自治会では、大人たちに声をかけ、スタンプカードを作り、土日はポイント2倍など現代風にアレンジし運営している。それから、参加賞も子どもたちに買い物に行かせ、準備してもらおう。「2万円分お菓子買ってきて」なんて言う子どもは大喜び。それを今度は自分たちで配ってもらう。きっと子どもたちが大人になっても記憶に残っているだろう。

い物支援の話もそう。情報交換ができる居場所は今後さらに大事になってくるので、推進していきたい。

高橋:将来像をいろいろと考えているが、協議体は40代や50代の自分たちが、この先困ることを今のうちに解決しておく場でもあると思う。北本市の今までの伝統を活かしながら、幅広い世代の市民がつながり、共に支え合っていく仕組みを考えていきたい。



小口恵美子さん



関口武男さん



鷺野勝正さん

い部分がある。社協入曾支部で作成している「入曾だより」などを配布しても、「これ何？」と言われることが多い。

鷺野：私は民生委員だったことがきっかけで協議体に関わっている。協議体立ち上げに向けて検討する中で、若いママさんたちも困っているということがわかっていたので、全世代型の取り組みにしよう！と始まった。じゃあどういいう人を集めたらいいか、誰に声をかけたらいいか、ということ、小学校の先生や保育園・幼稚園の先生、病院の先生、包括関係者など、いろいろな方をリストアップして勉強会につなげた。

個人的には福祉の精神はそれほど持ち合わせていなかったが、12年間民生委員をやっているうちに色々見方が変わってきた。地域のいろいろな人たちと出会って、福祉やボランティアに対する温度差もあると感じている。私は昔ながらの向こう三軒両隣の支え合いが重要だと考えている。明日は

我が身、できるうちに自分も動きたい。

協議体には様々な活動をしている方々が集まってくれたので、いい形の組織ができていると感じている。自分の年齢を踏まえて未来のことを考えると、一人でも多く仲間をさらに増やしていきたいと思う。

田口：私が協議体に参加するきっかけになったのは、定年退職後、さやま市民大学で誘われたこと。協議体には、病院関係、元気大学OB、育成会、自治会、包括、社協、公民館も参加しており、地縁じゃない人たちも参加しているところが特徴。

鷺野：協議体は、今でいう「ワンチーム」、昔でいう「輪」だ。意見がぶつかる時もあるが、方向性は一緒なのでみんなで協力している。

田口：行政の理解だけでなく、地域住民の理解があるから。

田口：地域の公的な組織や人が

私が身、できるうちに自分も動きたい。

協議体には様々な活動をしている方々が集まってくれたので、いい形の組織ができていると感じている。自分の年齢を踏まえて未来のことを考えると、一人でも多く仲間をさらに増やしていきたいと思う。

田口：私が協議体に参加するきっかけになったのは、定年退職後、さやま市民大学で誘われたこと。協議体には、病院関係、元気大学OB、育成会、自治会、包括、社協、公民館も参加しており、地縁じゃない人たちも参加しているところが特徴。

鷺野：協議体は、今でいう「ワンチーム」、昔でいう「輪」だ。意見がぶつかる時もあるが、方向性は一緒なのでみんなで協力している。

田口：行政の理解だけでなく、地域住民の理解があるから。

田口：地域の公的な組織や人が

今後、「いりそ支え合いたち」はどのように展開していくのでしょうか。

田口：まずは「サービスたち」(※下図参照)の充実を図りたいと思っている。協力会員が増えてきたので、その方たちを中心に「おしゃべりたち」などを活用しながら、地域の困りごとをみんなで一緒に解決していく流れを作りたい。そして、「ゆとりでたち」で地域住民の仲間づくりができたらいいな。「スマートたち」も早く進めて情報共有も促進をした

小川：地元企業が協力をしてくれて作ったホームページがあり、検索するとすぐ上のほうに出てるようになったので、これからも情報を積極的に発信していきたい。

鷺野：事業拡大ではお金の問題、人の問題が出てくる。継続できるかがかかってくるので、みんなできちんと考えないといけない。しかし、住民にも温度差がある。まずは福祉に関わ

しつかり活動を支援しているのが大きいと思う。

大久保：入曾地区にある病院に勤務しているが、病院の代表ということではなく一個人として参加している。

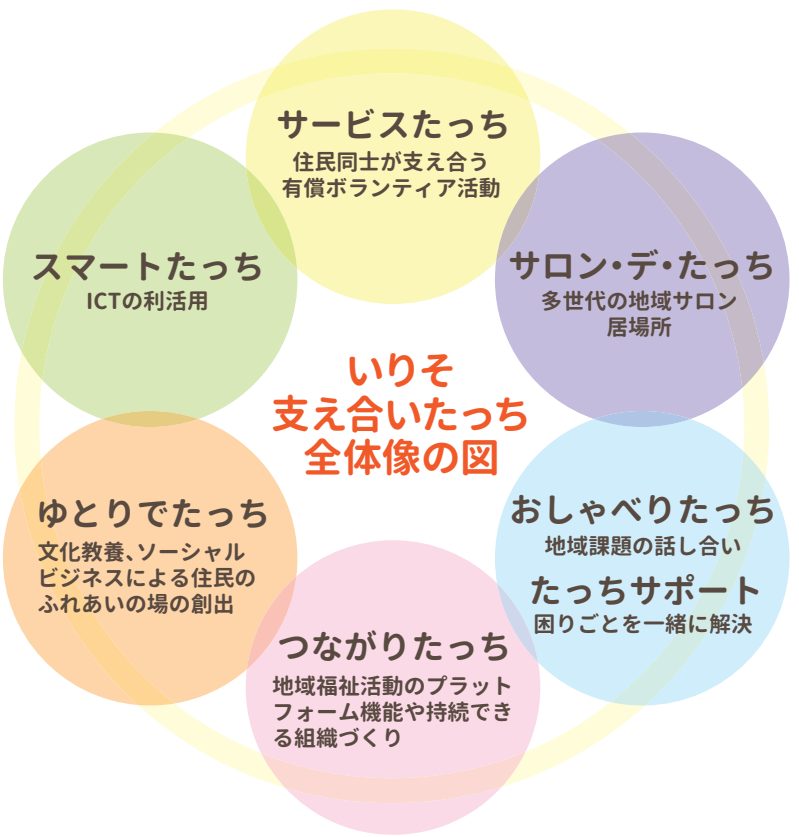
現在、私は64歳だが、60歳になつてから地域の活動を始め、さやま市民大学に入った。しかし、25年所属している入曾地区のソフトボールチームのメンバーに地域の活動について話しても、興味を持ってはくれない。中には、70歳を過ぎても仕事をしている人も多

いので、無理に勧めることはできないが、何かきっかけができればいいと思う。

鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて

りの少ない方々への認知度・知名度アップが必要。少しずつではあるが、「サロン・デ・たち」などのイベントをきっかけに、つながりができてきているので、できるところから声掛けをして仲間づくりを進めていきたい。



りのできないが、何かきっかけができればいいと思う。

鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて

りのできないが、何かきっかけができればいいと思う。

鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて

りのできないが、何かきっかけができればいいと思う。

鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて

りのできないが、何かきっかけができればいいと思う。

鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて

りのできないが、何かきっかけができればいいと思う。

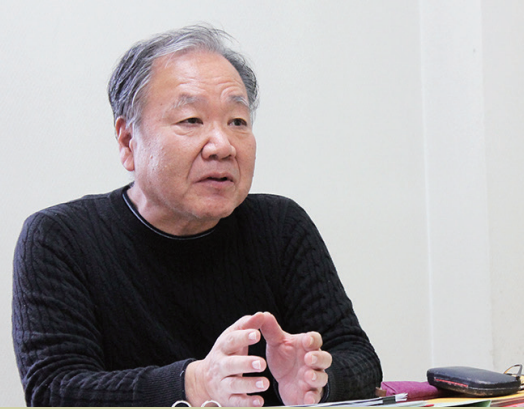
鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて

りのできないが、何かきっかけができればいいと思う。

鷺野：大久保さんとは、入っていたソフトボールチームが一緒だった。協議体に参加してみたら知り合いだった方もいて、元々つながりがある地域なのだど気づかされた。

関口：地元の病院も勉強会に講師として参加してくれてくれる。病院が地域に目を向けて



田口信一さん



大久保昭造さん



小川洋之さん

第1層SCの特徴

団体や企業との連携、住民の方への啓発など市町村圏域で取り組まなければならないことに対応しています。また、第2層SCと日頃から連絡をとって情報共有し、相談しながら進めるなどバックアップやサポートに努めます。

DATA

氏名: 嶋千春(しぎちはる)さん

担当地区: 熊谷市(全域)

趣味/特技: ドライブ(ストレス発散)

頑張っていることなど:

笑顔で接すること。特に第2層SCとは良いことも悪いことも話し合える関係を大事にしています。



8:30 始業 ミーティングで今日の動きを報告。

8:40 このあとの打ち合わせで使う資料の印刷や、問い合わせに対してFAXを送るなど、事務仕事。会議の資料作成なども行います。



10:00 医療生協さいたま生活協同組合と情報交換・打合せ。担当地区の第2層SCも同席し、現在の活動状況などを報告し合いました。さっそく、生協組合員の活動促進を目的に、支部会にて第2層SCが支え合いの必要性や地域の現状について話をするようになりました。



12:00 昼食 近くのお総菜屋さんのテイクアウトでランチ。

13:00 合間で記録を作成したり、情報収集をします。

それぞれの第2層の取組を整理したり、参考になる事例を調べることも欠かせません。

14:00 団地の管理会社に事業説明。団地の自治会などに第2層SCが関わっていく際に、管理会社の理解が必要なことから、生活支援体制整備事業について説明に伺いました。管理会社も関心を示してくれ、今後、積極的に自治会につないでくれることになりました。

市域の企業へのアプローチなので、第1層SCが窓口になりました。自治会を紹介されたら、速やかに各地区の第2層SCにつながります。



16:00 事務所に戻り、SCの活動記録を作成。

17:15 終業

第1層SCの仕事をお教えして！ 嶋千春さんに1日密着



現在活躍中のSC(生活支援コーディネーター)をちょこっとだけご紹介します！

まちかぞSC 第1層

DATA

氏名: 高橋康之(たかはしやすゆき)さん

担当地区: 鴻巣市(全域)

趣味/特技: スニーカー収集・コーヒーを嗜む

頑張っていることなど:

まずは興味や関心をもつこと、そして地域づくりの面白さを味わうことを心掛け、地域に出かけています！



DATA

氏名: 五十嵐裕美(いがらしひろみ)さん

担当地区: 上里町(全域)

趣味/特技: ランニング、手話(講座を受けて、勉強中です)

頑張っていることなど:

住民感覚を忘れずに、どうしたら地域の皆さんと一緒に自然な支え合いの関係性を築いていけるか、日々奮闘しています。



DATA

氏名: 乙坂明美(おとさかあけみ)さん

担当地区: 松伏町(全域)

趣味/特技: 約3000年前の中国文字「甲骨文」が好きで、書いたり見たりし、パワーをもらっています。

頑張っていることなど:

小さなまちの利点や特長を活かした顔の見える関係や地域づくりを目指しています。また、健康寿命が延びるよう、様々な仕掛けづくりを進めていきます。



第2層SCの特徴

地域住民の皆さんと関わりながら直接声を聞き取り、地域に合った活動の拡充・創出をサポートします。様々な活動団体と協働し、地域のニーズや資源、人と人をつないでいます。

DATA

氏名: 関口千里(せきぐちちさと)さん

担当地区: 深谷市(花園地区・川本地区)

趣味/特技: 模索中

頑張っていることなど:

地域の皆さんと顔の見える関係づくりに励み、地域の皆さんとともに「支え合いの地域づくり」をおこなっています。



8:45 出勤・出発

活動したい人たちと、支援する人をつなげることもSCの役割です。



9:00 今日、立ち上がる「通いの場(深谷⑤つつ体操)」会場へ。第2層協議体で開催した体験会がきっかけになったので、関係者の皆さんに挨拶。地域活動支援は包括とともに行います。



9:15 介護予防サポーター(ふっかファイン)養成講座会場到着。準備・受付を手伝い、講座が始まると受講者と一緒に体操。

休憩時間も受講者と積極的にコミュニケーションを図り、活動時に相談しやすい関係性をつくっています。



11:40 介護予防サポーター養成講座終了。これから「通いの場(深谷⑤つつ体操)」を立ち上げ予定の住民の方と、今後のスケジュール確認。



12:00 第2層協議体準備のため、会場に直行。移動中、担当地区内のパン屋さんにてランチ。

13:30 【第2層協議体】前月、第1層協議体が開催した「支え合い地域づくり講演会」で、各地区第2層協議体の活動を報告し合ったので、その活動内容の情報共有と今後の方向性について話し合いました。

16:00 担当地区公民館で情報収集。



16:30 事務所に戻り、記録を作成。

17:00 退勤

第2層SC関口さんに1日密着

SCのお仕事を教えて！

現在活躍中のSC(生活支援コーディネーター)をちょこっとだけご紹介します！

まちかぞSC

第2層



DATA

氏名: 塚本拓(つかもとたく)さん

担当地区: 和光市(中央エリア)

趣味/特技: ヤクルト400を飲み、スワローズを応援すること

頑張っていることなど:

地域に一步踏み込みながら思いを伝え、住民の皆さんが互助力を高められるよう、全力投球で取り組んでいます。

DATA

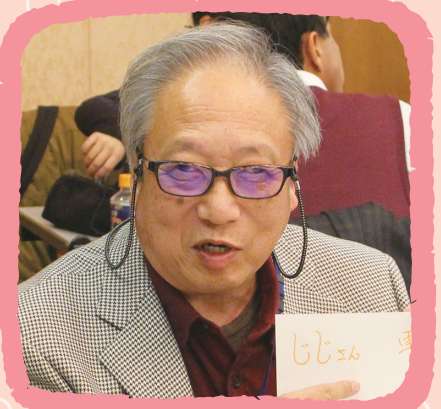
氏名: 中田仁(なかたひとし)さん

担当地区: 新座市(北部第一地区)

趣味/特技: 車のカスタマイズ。電装パーツの取り付けは、ほとんどDIYでやっています。

頑張っていることなど:

高くアンテナをあげることで、引き出しを増やして、その情報を住民の方々と共有することで、新たな情報発見につながると思います。



DATA

氏名: 松島愛(まつしまあい)さん

担当地区: 八潮市(西部圏域)

趣味/特技: DVD鑑賞。アクティブなほうではないので…

頑張っていることなど:

自分がやりたいことと市民の皆さんのやりたいことは違うかもしれない、ということをお忘れずに、自分の意見を出しすぎず、皆さんの思いを大切にしたいです。

